

### 3. 公園緑地

#### (1) 基本的な考え方

公園緑地は、市民の憩いとやすらぎの場であるとともに、スポーツ・レクリエーションの活動の場として利用され、親しまれているとともに、地域の景観価値を高める要素となっています。

公園緑地の整備は、公園内外の良好な景観が得られる視点の発掘と、そこが快適であるための工夫が重要となります。また、周辺の道路等との連続性等を工夫することで、周辺環境の一層の改善が図られます。

#### (2) 景観形成の方針とチェック事項

##### 構想段階

- ✓ チェック 1: 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか? (P37)
- ✓ チェック 2: 周辺の景観に対する影響を検討しているか? (P37)
- ✓ チェック 3: 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか? (P37)



##### 設計・施工段階

方針① 敷地の周囲は、良好な緑の景観を形成するよう努める。

- ✓ チェック 1: 周囲と隣接する境界部や入口周りは、周辺の景観とのバランスや緑のつながりを意識しているか? (P38~40)

方針② 公園から良好な景観が得られる場合は、視点の場を快適な空間として整備に努める。

- ✓ チェック 1: 公園から快適に眺められる場の工夫をしているか? (P41)

## 構想段階

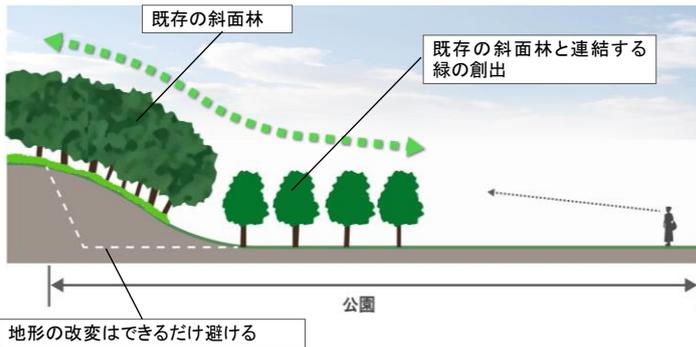
### ✓ チェック 1 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか？

- ① 現地を踏査し、周辺環境や地域特性の把握に努める。
- ② 計画の対象としている公園が景観計画に定める景観ゾーン・景観拠点・景観軸のどこに該当しているかを確認し、その方針を踏まえた景観整備の構想等を立てる。

### ✓ チェック 2 周辺の景観に対する影響を検討しているか？

#### 連続性

- ① 周辺の景観とのつながりに配慮した緑の配置を検討する。
  - 公園周辺の地形や緑のつながりを分断しないで活かすよう工夫する。



▲既存のシンボル樹を景観資源として保全し、周囲の畑と一体となった景観を形成している。【①、②】

#### 周辺特性

- ② 公園・緑地内やその周辺に保全または活用すべき眺めや景観資源があるかを確認する。

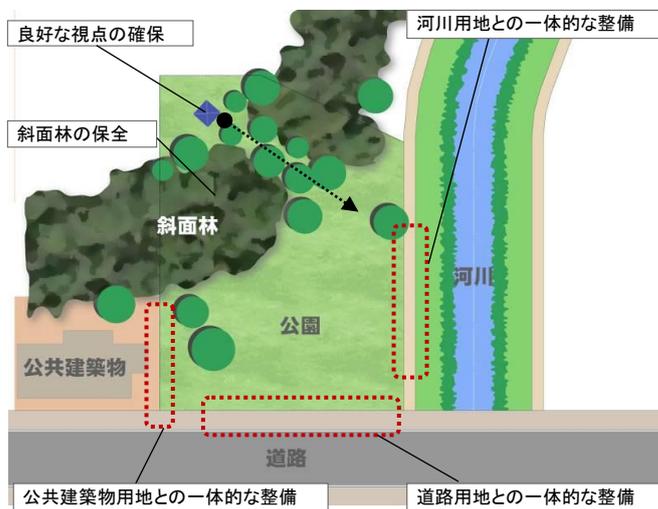
### ✓ チェック 3 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか？

#### ゆとりスペース

- ① ゆとりを感じさせる景観を形成するために、公園と接する他の公共施設や民有地と一体的な整備ができるかを検討する。
  - 隣接する施設と一体となった潤いやゆとりある空間をつくる。

#### 眺望

- ② 地域の特徴的な景観が得られる場所では、その景観を快適に眺められる視点を確保するとともに、その眺めを阻害しないよう公園施設や植栽の適切な配置を検討する。



▲前方の街路に向け、一体的に整備されている商業地の緑地。 圧迫感の無い開放感のある景観をつくり出している。【①】



▲まち並みを一望できる視点などを活かすことを検討する。【②】

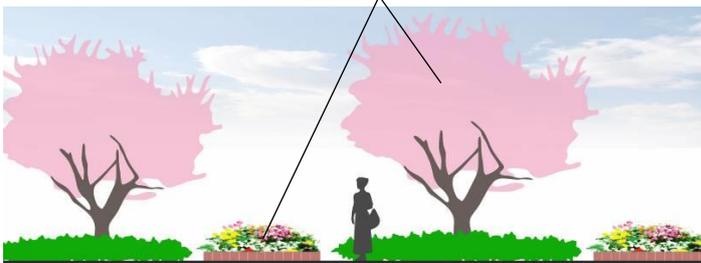
方針① 敷地の周囲は、良好な緑の景観を形成するよう努める。

√ チェック1 周囲と隣接する境界部や入口周りは、周辺の景観とのバランスや緑のつながりを意識しているか？

花木・草花

①境界部に植栽する樹種は、歩行者等が四季の変化を感じられるような花木等の選定に努める。

季節を感じられる樹種の選定や、彩りのある草花の植栽



▲公園の境界部に桜を植栽し、彩りによる魅力づくりが図られている。【①】



▲草花をできるだけ立体的に植栽し、ボリュームを見せることで、歓迎の意図が表現されている。【①】



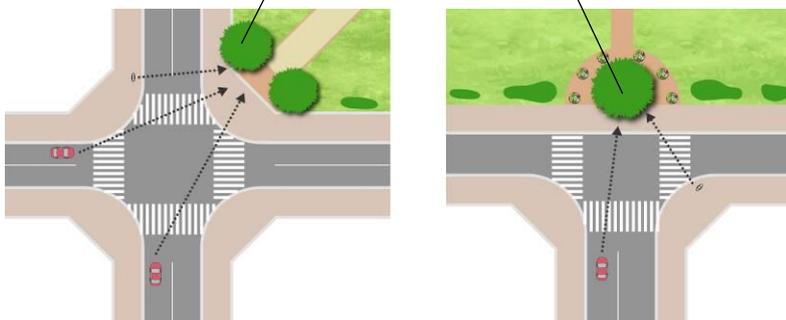
▲入口周りにプランターを設置し、ゆとりと潤いのある景観をつくり出している。【①】

入口周り

②入口周りに緑を活かし、利用者におもてなしを感じてもらえるようなまちかどづくりに努める。

➢ シンボルツリーの植栽や草花によるまちかどの表情をつくる。

エントランスにシンボルツリーを配置し、周辺から入口が分かるような工夫

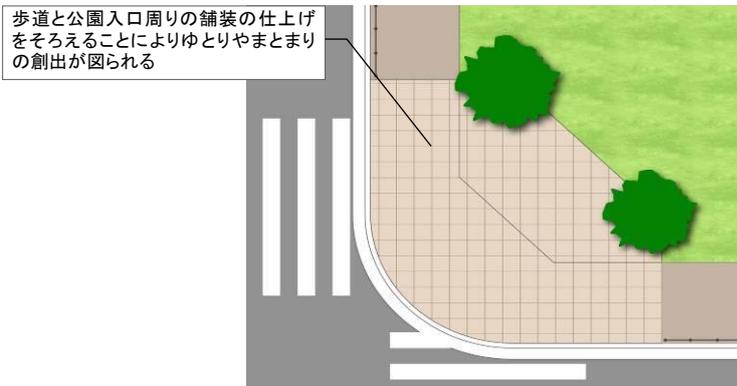


▲シンボルツリーを植栽し、特徴的な入口周りとなっている【②】



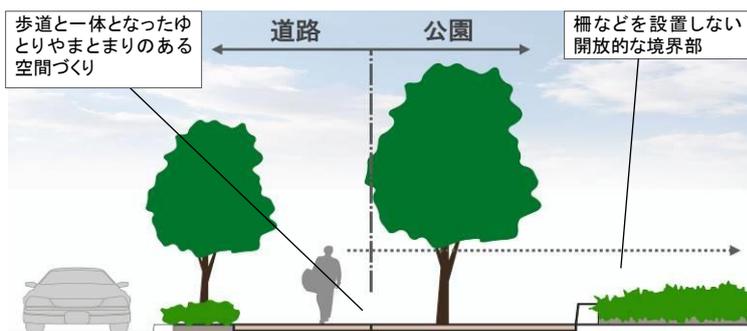
▲公園入口周りに多様な緑を植栽し、まちかどへの表情づくりの演出がされている。【②】

- ③ 周辺からの見通しを確保し、安全で開放的な入口周りとするこゝで、ゆとりやまとまりのある景観づくりを図る。



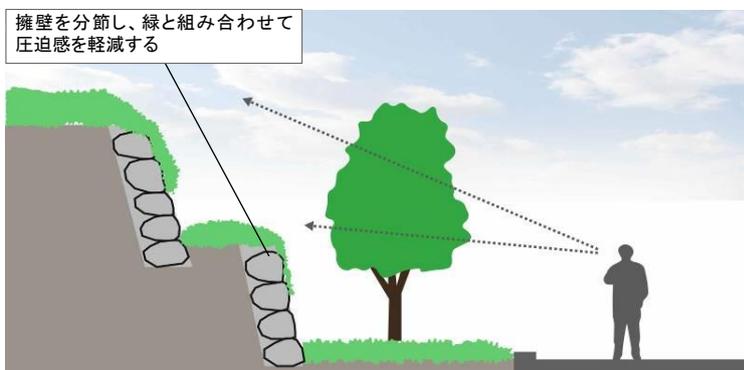
ゆとりづくり

- ④ 隣接する施設との舗装の統一化や、見通しの良い開放的な空間づくりに努める。



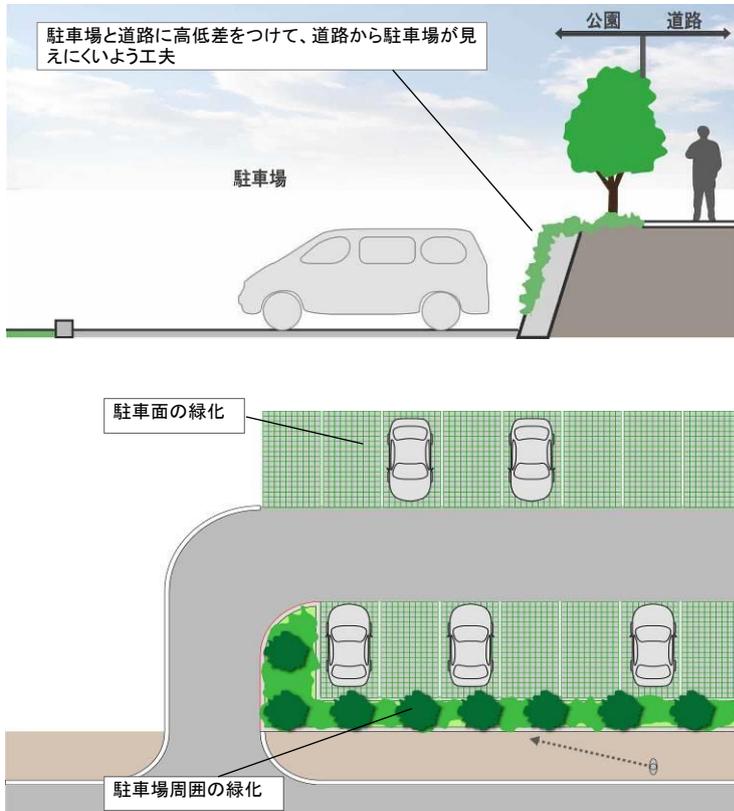
擁壁・法面

- ⑤ 擁壁・法面は、できるだけ緩い勾配とするとともに、形態の分節化や周辺と馴染む仕上げ材の使用、下垂性植物等の植栽により圧迫感を軽減を図る。



## 駐車場・駐輪場

- ⑥ 駐車場・駐輪場を整備する場合は、周辺から目立たないように配置や周辺道路との高低差による遮へい、周囲や駐車・駐輪面の緑化による修景等の工夫を図る。



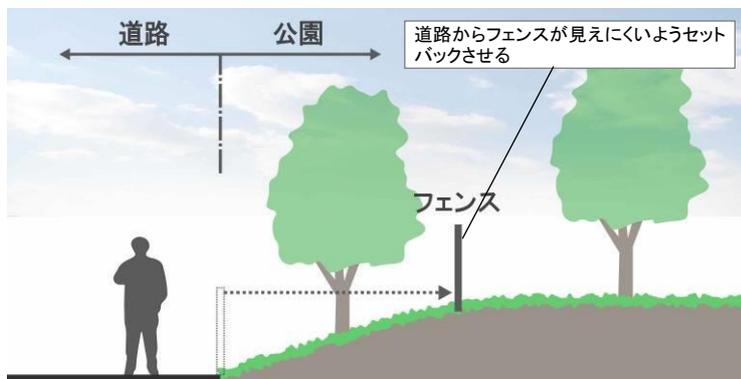
▲道路側から車が見えにくいように中低木で修景されている。【⑥】



▲道路側から車が見えないよう植栽で遮へいされている。【⑥】

## 防護柵

- ⑦ 外周部に柵等を設置すると閉鎖的な印象を与えやすいため、柵を設置しない境界部のあり方を検討する。  
やむを得ず設置する場合においても目立たないように工夫する。



▲駐車面を緑化用のブロックで舗装することで、潤いづくりに配慮されている。【⑥】



▲フェンスが境界部からセットバックされ、歩道にゆとりが感じられる。【⑦】

## 方針②

公園から良好な景観が得られる場合は、視点の場を快適な空間として整備に努める。

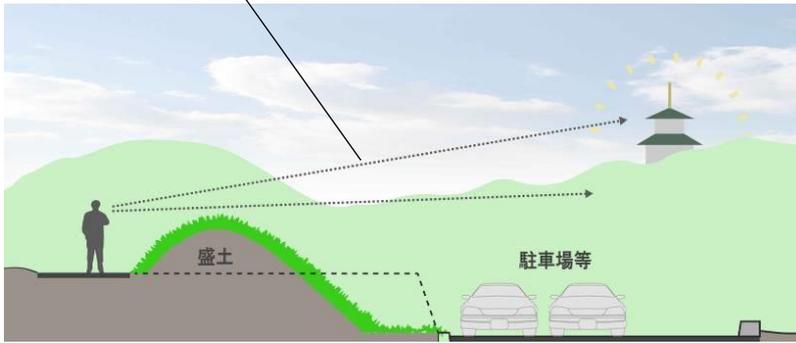
### ✓ チェック 1

公園から快適に眺められる場の工夫をしているか？

#### 眺望の確保

- ① 視対象への眺望を保全するため、眺望の阻害要因が見えにくくなるよう工夫する。

視点場周辺の盛土により、駐車場(景観阻害要因)が見えないよう工夫した例

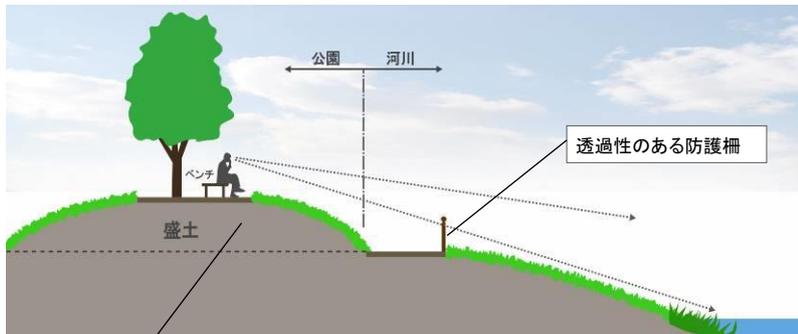


▲ 地域の特徴的な景観を眺めることができる公園。ベンチに座った際に、柵が視対象を遮らないよう高さが配慮されているとともに、公園周囲に植栽された低木によって、景観の阻害要因が見えにくくなっている【①】

#### 快適さの確保

- ② 周辺の景観特性を活かしつつ、視対象を快適に眺められる場づくりに努める。

- 既存地形の活用や築山の設置などにより、視対象が見やすくなるよう工夫する。



見やすく快適な場所をつくる



▲ 緑に囲まれた快適な眺望スポットとなっている。【②】



▲ 良好な景観を一望できる位置に視点の場を確保し、眺望を阻害しないよう樹木の配置や剪定に配慮されている。【②】



▲ 飛行機の離着陸を快適に眺められるようベンチの周囲に草花が植栽されている。【②】